

野鳥

市民の森で観察された野鳥

この森で、姿やさえずりを確認できた野鳥は、2011年11月現在、51種です。
(あいうえお順→)

アオゲラ	アオサギ	アオジ	アオバト
アカゲラ	アトリ	イカル	イスカ
ウグイス	エナガ	オオタカ	オオルリ
オナガ	カケス	カシラダカ	カッコウ
カルガモ	カワセミ	カワラヒワ	キジ
キジバト	キセキレイ	キビタキ	クロツグミ
コガモ	コガラ	コゲラ	ゴジュウカラ
サンショウクイ	シジュウカラ	シメ	センダイムシクイ
ツツドリ	ツバメ	トビ	ノジコ
ノスリ	ハクセキレイ	ハシブトガラス	ハシボソガラス
ヒガラ	ヒヨドリ	フクロウ	ホオジロ
ホトギス	マガモ	ミソサザイ	ムグドリ
メジロ	モズ	ヤマガラ	



オオタカ



フクロウ



オオルリ



ミソサザイ

野鳥の鳴き声

野鳥の鳴き方は2種類あると言われています。^{さえず}囀りと^{しな}地鳴きです。ウグイスを例にとってみましょう。

ウグイスは「ホーホケキョ」と鳴きます。これが囀りで繁殖期にメスを求めて、そして^{なわば}縄張りを主張して鳴くと言われています。

囀りの例

カッコウ	「カッコウ カッコウ カッコウ」
キジバト	「デデーポオポオ デデーポオポオ」
シジュウカラ	「ツツピ ツツピ ツツピ…」
ツツドリ	「ポポツ ポポツ ポポツ…」と竹筒の端を手でたたいたような声で鳴く。
ヤマガラ	「ツツピー ツツピー ツツピー」
ハシブトガラス	「カア カア カア」と澄んで鳴く。
ハシボソガラス	「ガーア ガーア」としわがれ声で鳴く。

それだけではありません。枝を飛び交いながら「チャッチャツ」と鳴いているのを聞いたことはありませんか。これを地鳴きといい、仲間との情報伝達です。

そして、その囀りを親しみを持って人の言葉で置き換えたのが**聞きなし**です。その聞きなしを覚えやすいように、ウグイスは「法、法華経(ホー、ホケキョ)」と鳴くと言い伝えられています。

市民の森で観察できる野鳥の聞きなしをいくつか挙げておきます。森を歩くとき、耳を澄ませてみてください。あなたはどの聞こえますか。

聞きなしの例

イカル	「オキクニジューシ」(お菊二十四)
センダイムシクイ	オスは「ショウチュウウツパイ グイーツ」 (焼酎一杯グイーツ)
ツバメ	「ツチクッテ ムシクッテ クチシプーイ」 (土喰って虫喰って口洗い)
フクロウ	「ボロキテ ホーコー」(ぼろ着て奉公)
ホオジロ	「イッピツケイジョウ ツカマツリソウロウ」 (一筆啓上仕候)
ホトギス	「トッキョ キョ キャ キョ ク」 (特許許可局)
メジロ	「チョーベエ チューベエ チョチューベエ」 (長兵衛 忠兵衛 長忠兵衛)

森にはなぜ、多くの鳥たちがいるのだろうか？

森の中で鳥たちは棲み分けをしています。樹木の高い所を生活圏としている鳥たち、中間あたりを生活圏とする鳥たち、下層部を生活圏とする鳥たちと様々です。

また、巣を作る場所も、木の上にする鳥たち、藪の中にする鳥たちと様々です。

森の多様性が鳥たちの多様性を生むことになります。

わたしたちはこのことを忘れずに、森づくりに取り組み、観察を続けていきます。

